

「2024年度インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部3年 鵜飼 諒一

私が、以前香港のプログラムに参加していたため、留学について、また大学の授業に関しての意識の変化はあまり変わらなかったです。しかし、私が留学に対して大きく印象が変わった点としては、留学では言語が重要であるということをはっきりと感じた点です。以前の香港のプログラムでは、第二外国語で中国語をしていたため、店員さんが言っていることや、バスでの案内等はある程度は聞き取れることが出来ており、生活にそこまで苦労することはありませんでした。しかし、今回のプログラムでは、全くインドネシア語を知らない状態で行ったため、店員さんの言っていることが一言も聞き取れず、注文に苦労しました。また、今回のプログラムで交流した現地の学生さんは、日本語が話せるため、前回のプログラムと比べ、会話することに障害が少なく、とても仲良くすることが出来ました。このように、互いに同じ言語を知っていることで、留学生活がより快適になり、現地の学生とも仲良くすることが出来るとわかりました。なので、いくら言語の翻訳機能が発達した現在であっても、言語を学ぶことの意義を実感しました。

さらに、東南アジアへの見方が変わりました。正直私の古い見方では、東南アジアの国は汚く、治安も悪いと考えていました。しかし、インドネシアの泊まったホテルはきれいで暮らせないことはなく、ジャカルタ周辺の治安はとても良かったです。また、大学の施設内の建物はとてもきれいで、公共交通機関も思ったより発達していました。他にも、現地の学生がどのようなことに興味を持っているのか、もしくは彼らがどのように暮らしているかもしれました。その中で、ネットや授業などで知った情報と乖離していることも多数ありました。現地に行くことでしか、手に入らない情報があるということを感じました。

ところで、プログラム内容で一番良かったのは共同セミナーです。この共同セミナーの良い点としては、現地の学生と必ず長い時間会話する機会が生じることで、自然とお互いの情報が交換される点と、お互いの国の比較をテーマとすることで、相手の国について調べる時間が生まれることです。このセミナーを通じて、現地の学生と友達になることが出来、相手の国に対して新たな知見をえることが出来ました。

最後に進路についてですが、今回のプログラムによって進路の分野を変更することはなかったです。しかし、進路先について色々考えることとなりました。進路先として、会社への就職を考えているのですが、その会社の転勤先に東南アジアの国々があると、生活することが怖くて避けていました。でも、今回のプログラムを通してインドネシアの国に対する印象が変わり、行きたくない国から行きたい国へと変化しました。なので、先ほど述べたような会社への就職も一つの選択肢となりました。